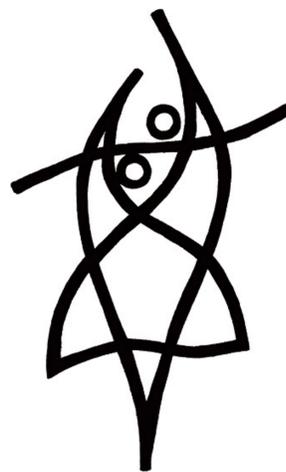


News

SAITAMA

DANCE ASSOCIATION



No. 58

一般社団法人
埼玉県舞踊協会
ニュース第58号

2024.10.25



新トライ部門含む 12日間 無事終幕！

ごあいさつ

(一社)埼玉県舞踊協会 会長 上原尚美

空が澄み清々しい秋を感じる候となりました。皆様ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。今年度は6月に第48回ステージ1、夏には第56回埼玉全国舞踊コンクールが皆様のご協力のもと、無事に開催されました。

ステージ1ではHope賞(1名)、Performances賞(2名)が決まりました。この秋10月20日の国民文化祭りふ洋舞フェスティバルin可児にて、過去のステージ1受賞者たちの合同作品を埼玉県舞踊協会からの参加作品として上演いたします。みなさまの活躍に期待しています。

コンクールではトライ部門を新設し、年齢にかかわらずのびのびと踊る参加者達の姿を見て大変うれしく思いました。いつも皆様の温かいご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

P.2 第56回埼玉全国舞踊コンクール 報告

P.3 創作舞踊部門 / クラシックバレエ部門

P.5 モダンダンス部門

P.7 おめでとらトピックス / 第48回ステージ1受賞者

P.8 協会からのお知らせ / お問い合わせ / 編集後記

発行所 一般社団法人 埼玉県舞踊協会

発行者 上原 尚美

〒330-0056

埼玉県さいたま市浦和区東仲町1-16 鳥昇ビル3階

TEL 048-882-7530 FAX 048-882-7549

第56回 埼玉全国舞踊コンクール2024

7/27～8/1 バレエシューズ部門・クラシックバレエ部門・創作舞踊部門

8/2～8/7 トライ部門・モダンダンス部門

主催 (一社) 埼玉県舞踊協会 会場 埼玉会館大ホール

後援 埼玉県、埼玉県議会、埼玉県教育委員会、(一社) 埼玉県文化団体連合会、朝日新聞さいたま総局、埼玉新聞社、東京新聞さいたま支局、毎日新聞さいたま支局、読売新聞さいたま支局、テレビ埼玉、チャコット(株)、一般社団法人現代舞踊協会、(公社) 日本バレエ協会、(公財) 橘秋子記念財団、(公財) 埼玉県芸術文化振興財団

創作舞踊部門

外部審査員 批評家 うらわまこと/請川幸子 (彩の国さいたま芸術劇場事業部舞踊担当)
舞踊家 唐津絵理/島地保武

審査員講評 創作舞踊部門 『基本構想とその舞台化に工夫がみえた』うらわまこと

他の芸術と同様、舞踊においても常に新しい作品が求められます。舞踊の創作とは振付だけでなく音楽、美術、照明などを統合する大変な仕事ですが、それにチャレンジした方々に敬意を表します。

決選進出8作品、全体として基本構想も舞台化もよく考えられていました。出演者はソロから6人まで、少人数作品は具体的なテーマを演技的表現や小道具によって明快に描き出し、群舞作品は動きや構成を工夫して象徴的な意味を表現しました。

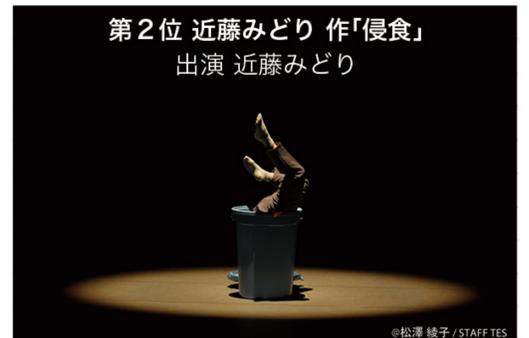
個々の作品について要点を。1位の「それでも月曜日はやってくる」と2位「侵食」はデュエットとソロ。デュエットの作者嶋澤のどかの相棒近藤みどりがソロの作者。どちらもなかなかのセンス。前者は机と椅子を横目に、2人の頭をよぎる月曜日の憂鬱を、後者は蓋付の大きなポリ容器に向い、増え続けるもゴミに飲み込まれるという、日常的な心理の動きを自虐的に、しかもユーモアを加えて具体的に描き出しました。続く「善悪の彼岸」(村松千花)はトリオ、ここでは照明を複雑に駆使して、音楽とともに動きを通して空間に意味を与えました。4位の「命尽(いのちづく)」は尚美学園大学舞台表現学科の6人、そして6位の「moos」(金安夏希)は4人の出演。ともにダンサーの隊型化、組み合わせを主体にテーマを表現しようとしています。前者はかげろうのような羽根を、後者のタイトル「モス」は苔の意味ですが、「moth」の蛾にも見え、ともに暗い空間での生命の精一杯の営みを感じさせました。5位の「Into the Light」(遠藤舞)はソロ。白塗り、黒のスーツ姿。暗めの空間で明かりを求めているのでしょうか。最後に脱いで床に広げた上着が影のように見え、実体との分離に意味を感じました。

さらに、多数の表裏異なったイメージの4角のシートを操り、2人の心象を表した森淑那作品、センターの紗布に対するはかなさを周囲を移動しつつ組み上げていく片山葉子作品にも見るべきものがありました。



第1位 嶋澤のどか 作
「それでも月曜日はやってくる」
出演 近藤みどり 嶋澤のどか

この度は有難い賞をいただき、大変嬉しくそして身が引き締まる思いです。「心が踊るような作品を作りたい」という素直な思いで作った作品をこの様に評価いただき嬉しく思っております。踊り続けられる環境にいられることは当たり前ではないと感じます。支えてくださる多くの方へ感謝の気持ちを忘れず、これからも自分が「今表現したいもの」を追求していきたいです。今後も精進してまいりますのでご指導いただけますよう、宜しくお願いいたします。最後に、審査員の先生方、協会の先生方へ心より感謝申し上げます。有難うございました。



第2位 近藤みどり 作「侵食」
出演 近藤みどり



第3位 村松千花 作「善悪の彼岸」
出演 村松千花 金森みずほ 矢島茜

以下上位入賞

第4位 尚美学園大学舞台表現学科 「命尽^{いのちづく}」/第5位 遠藤舞「Into the Light」/第6位 金安夏希「moos」

クラシックバレエ部門

外部審査員 批評家 池野恵(1部)/高橋森彦(ジュニア部)/児玉初穂(2部)
舞踊家 酒井はな/篠原聖一/島田衣子/三木雄馬(3部門共通・50音順)

● 1部(成人)

審査員講評 クラシックバレエ部門1部(成人) 池野恵

年々記録を更新する猛暑の中、本年は8月1日(木)にクラシックバレエ部門1部の決選が行なわれた。エントリー37名の内、決選に進んだ25名は、高校3年生以上という年齢からプロフェッショナルへの準備段階ないしは、既にバレエ団公演等に出演しているダンサーも含まれている為、さすがに安定したレベルで概ね完成度が高く、舞台への意欲も十分に感じられた。第1位の井上慈英は、長身の恵まれた体型を生かした伸びやかな動きと、華のあるマナーが生来の舞台人としての資質と将来性を感じさせて圧倒した。井上を含め、激戦の女性上位入賞者に共通するのは、コンクールに臨む為の戦略がより入念に練られており、結果として全体の洗練度が増しているのを実感できた事だ。このように一定のレベルが揃った場でのコンクールでは、欠点がない事以上に、その人ならではの魅力をいかにアピールできるか、という点が比重として高まっていく。すなわち、ほとんどプロフェッショナルと同様に、舞台成果が問われるという点において、2部やジュニア部とは一線を画すところが成人の部の特徴と言えるだろう。

こうした視点から、近年はエントリー曲に広がりが出てきたのが興味深い。かつてコンクール曲の定番だった『海賊』は、本年は決選では見られず、代わって『ライモンダ』、『フローラの目覚め』、『白の組曲』、『ローレンシア』、『アルレキナーダ』それに『マルコ・スパダ』等、これまで日本ではあまり全編を上演される機会が少ない、あるいはまったくないレパートリーが散見された。これについては、今日のグローバル化、情報化の流れから、日本のバレエ界でも多様なレパートリーを積極的に採り入れようとする動きの成果の一つと捉えることができる。出場者はもちろん、指導者の先生方には、その英断に敬意を表したい。一方でダンサーの個性を際立たせる差別化という点で、一見好ましく思えるバラエティに富んだ選曲は、ほぼ一人一曲状態を作り出し、比較検討という事が困難な状況を生み出す事にも繋がっているのを留意したい。海外のコンクールで、クラシックはもちろん、コンテンポラリー審査ですら課題曲が導入されている理由を、改めて一考すべき時ではないか。



第 1 位 井上慈英「アクティオンの Va」

僕は前年度、初めてこのコンクールに挑戦させてもらい、読売新聞社賞をいただきました。少しでも上手くなれるよう自分なりに頑張ってきたので、結果に繋がり感謝の気持ちでいっぱいです。ケイバレエアカデミーの蔵校長をはじめ、たくさんの先生方に見ていただき、アドバイスを頂きました。本番の4日前まで海外のサマースクールに参加していたため、その間は練習ができず、不安を抱えたまま予選に臨みました。案の定思い通りに踊れず反省と悔しさがありませんでしたが、本線までに気持ちを整え自分なりに納得の行く踊りができたと思っています。この経験でダンサーは振りや技の完璧さだけでなくメンタルのケアも必要不可欠なのだということを学びました。これからも高みを目指して精進してまいります。ありがとうございました。

© 松澤 綾子 / STAFF TES



第 2 位の 1 井上和奏
「金平糖の Va」



第 2 位の 2 藤井くるみ
「エスメラルダの Va」



第 3 位の 1 吉本凧李
「マルコ・スパダより Va」



第 3 位の 2 加藤千佳
「オディールの Va」



第 3 位の 3 小林可那
「エスメラルダの Va」

以下上位入賞

朝日新聞社賞 川村咲子「ダイアナの Va」 / 埼玉新聞社賞 孝多里月「ローレンシアの Va」 / テレビ埼玉賞 関根杏「ジゼルの Va」 / 東京新聞賞 三宅乃愛「ジゼルの Va」 / 毎日新聞社賞 三谷天乃「フローラの目覚めより Va」 / 読売新聞社賞 齋藤憲吾「パキータより男性 Va」 / チャコット賞 勝原佳音「オディールの Va」

●ジュニア部

審査員講評 クラシックバレエ部門ジュニア部 高橋森彦

審査対象は中学2年～高校2年。プロを目指すならば基盤を固める大事な時期にある。本部門を2019年、2022年に続いて審査したが、基礎的な部分の底上げが図られ、身体能力的に鍛えられた人も見受けられた。コロナ禍においても、各スクール・教室の指導者の先生方が熱心に研究され、出場者の皆さんもそれに応え練習に励んでいるのだろう。国内バレエ教育環境の底力と今後のさらなる可能性を体感した。

決選は一発勝負だ。時間をかけて何曲も審査するわけでもないし、レッスン中心に将来性重視でセレクションをするわけでもない。だが、大切なのはやはり基礎。開脚やポジションの精確さなど基本のキの部分に常に保つこと。その上でテクニックの習熟度が問われよう。餅は餅屋だが、クラシックバレエの審査にあたるのであれば誰しもが外せない部分である。さらに、上体と脚の部分の調和や呼吸や重心の動かし方の巧みさ、さらには音楽性、作品・役柄への理解などが、踊りに輪郭と膨らみをもたらす。

表現その他に関しては審査する側の受け止め方に多少の差はあろう、今回こだわったというか少し気になったのは、作品・役柄への理解である。むろん多くの出場者が気を配っているに違いないが、どのような状況での踊りか、いかなる役どころか。エトワールの踊りなのか、ソリストの踊りなのか。そういったバレエ＝舞踊劇での在り方を改めて突き詰めると、背景が豊かになって踊りの魅力が増し、観る者により訴えるのではないかと。

花形部門であるだけに、将来に期待したい人が散見された。男性上位においては、トータルで完成度の高い踊りを披露しつつ魅せたり、跳躍や回転技の切れ味抜群で潜在力の高さも感じさせたりする人がいて末頼もしい。女性上位については、技巧をこれ見よがしに示すよりも、丁寧に役柄を表現した実のある踊りをした人が入り望ましい。伝統あるコンクールにふさわしい入賞者を得られたのは何よりである。



© 本橋 亜弓 / STAFF TES

第 1 位 清水舞斗「パキータより男性 Va」

この度は、名誉ある埼玉全国舞踊コンクールで1位と沢山の素晴らしい賞を受賞させて頂きとても光栄です。今まで指導して下さった先生方や支えてくれた両親、スタッフの方々に感謝しております。これからも感謝の気持ちと、踊る楽しさを忘れずにがんばっていききたいと思います。

第56回埼玉全国舞踊コンクール開催！

@本橋亜弓 / STAFF TES



第2位の1 全成慶
「エスメラルダより男性 Va」



第2位の2 金井さら
「スワニルダ1幕の Va」



第3位の1 水戸野彩花
「サタネラの Va」



第3位の2 安海舞耶
「オーロラ1幕の Va」



第3位の3 斉藤紗菜
「パキータより Va」

以下上位入賞

朝日新聞社賞 山崎千夏「アクティオンの Va」 / 埼玉新聞社賞 木山莉々衣「フローラの目覚めより Va」 / テレビ埼玉賞 塚本花梨「パキータより Va」 / 東京新聞賞 二宮百花「パキータより Va」 / 毎日新聞社賞 比留間菜々子「ライモンダより Va」 / 読売新聞社賞 前田大翔「サタネラの男性 Va」 / チャコット賞 上阪友香「ナポリより Va」 / 埼玉県舞踊協会奨励賞 中村凜香 前川ジェイド 池谷澤 森杏華 松本未愛 藤井愛己 植村まお 岩崎以登美 酒井友愛 篠崎斗夢

● 2部 (児童)

審査員講評 クラシックバレエ部門2部 (児童) 児玉初穂

100名の審査を終えてまず思ったのは、上位入賞者となる参加者の技術の高さ、踊りの仕上がりの良さだった。1位の滝本慧さん(フローラの目覚めより Va)は、目線の使い方が明確で、アン・ドゥダン回転を含む技術が素晴しかった。2位の1の高橋稟奈さん(エスメラルダの Va)は、技術と古典的スタイルを備え、踊りに艶がある。2位の2の岩城心那さん(エスメラルダの Va)は伸びやかなスタイル、3位の1の中村桃子さん(フローラの目覚めより Va)、3位の2の高橋采良さん(タリスマンの Va)は美しいスタイル、3位の3の星野心奏さん(ワルプルギスの夜より Va)は技術に加え、ヴァイタリティにあふれていた。

入賞者では、朝日新聞社賞 片山大岳さん(アルレキナーダの男性 Va)の正確で美しい回転、埼玉新聞社賞 菊地麗さん(オーロラ1幕の Va)の優雅さと気品、東京新聞社賞 枝田悠志さん(白鳥の王子の Va)の品格、毎日新聞社賞 野澤沙羅さん(タリスマンの Va)の古典的雰囲気、また埼玉舞踊協会奨励賞では、忽滑谷梨乃さん(スワニルダ1幕の Va)の音楽性が印象的だった。

昨年は古典的スタイルを備えた参加者が多く見受けられたが、今年は技術の高さの方が際立っている。一方入賞者以外では、基礎を踏まえていない踊りも散見された。きちんと回る、きちんとアラベスクするなど、個々のパを押さええないまま踊る参加者が、若干数見られたのは残念だった。指導者の方には、もう少し基礎訓練の徹底を望みたいと思う。

表彰式では、審査に入らなかったクラシックバレエジュニア部と1部の入賞者も、立ち姿のみだが見ることができた。今年はKバレエアカデミーの参加者が多く、そのレヴェランスに驚かされる。形の美しさのみならず、精神も宿っていたからである。熊川イズムがバレエ教育の面でも旋風を巻き起こす予感を覚えた。



@小川 智恵子 / STAFF TES

第1位 滝本慧「フローラの目覚めより Va」

私が初めて埼玉全国舞踊コンクールに参加したのは小学四年生の夏。当時はコロナ禍でしたが、埼玉県舞踊協会の皆様のおかげで舞台上に立てた喜びと、他の方々の踊りを観て、つま先や指先まで美しく、観ている人を幸せにできるような踊りをしたいと強く思ったことを覚えています。それから毎年挑戦し、2部最後の今年、1位を頂けたことは夢のようです。フローラの Va はハーブの音色が優雅な踊り。繋ぎを丁寧に指先を意識して練習してきました。初挑戦の時の学びが今の自分に繋がっていることを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

@小川 智恵子 / STAFF TES



第2位の1 高橋稟奈
「エスメラルダの Va」



第2位の2 岩城心那
「エスメラルダの Va」



第3位の1 中村桃子
「フローラの目覚めより Va」



第3位の2 高橋采良
「タリスマンの Va」



第3位の3 星野心奏
「ワルプルギスの夜より Va」

以下上位入賞

朝日新聞社賞 片山大岳「アルレキナーダの男性 Va」 / 埼玉新聞社賞 菊地麗「オーロラ1幕の Va」 / テレビ埼玉賞 大西沙奈「オディールの Va」 / 東京新聞賞 枝田悠志「白鳥の王子の Va」 / 毎日新聞社賞 野澤沙羅「タリスマンの Va」 / 読売新聞社賞 権田みなみ「オーロラ1幕の Va」 / チャコット賞 福田結麻「リーズの Va」 / 埼玉県舞踊協会奨励賞 脇田桃寧 高橋伊桜理 川口優芽 笹岡采莉 金杉麻央 忽滑谷梨乃 福田希良花 吉田柚香 山田陽和子 千葉有希乃

モダンダンス部門

外部審査員 批評家 上野房子（1部）／呉宮百合香（ジュニア部）／村山久美子（2部）
舞踊家 明尾真弓／清水フミヒト／中村しんじ／山名たみえ

● 1部（成人）

審査員講評 モダンダンス部門1部（成人） 上野房子

モダンダンス部門1部（成人の部、大学1年生以上）決選で50名の出場者の審査を通して考えたことをここに記します。

出場者の持ち時間は、モダンダンス部門1部（中学1年生～高校3年生）、2部（小学1年生～6年生）より1分長い、4分以内。この〈1分〉を如何に活かすのか。出場者によって時間の使い方に大きな違いがありました。

ほとんどの作品に共通していたのは、緩急のメリハリが付けられていたことです。スピーディな場面では半ば決め技として定着したフレーズが多用されるのに対し、ゆったりとした場面では、〈1分〉の時間を効果的に使って、叙情的な演技やモノログのような語りを見せるなど、出場者自身の個性と作品の違いが鮮明になりました。

〈1分〉に苦慮する出場者も見受けられました。つなぎのステップや見せ場の前の小休止に見えることがないように、ひと工夫してほしいものでした。

多くの上位入賞者達が、舞台上に現れた瞬間から空間を支配する存在感を備えていたことも印象に残っています。技術力、表現力といった尺度では括れない、自分はこう踊るのだ！という強い意志が伝わってきました。ダンスという表現を完成させるのが、たとえ指導者の指導を受けているにしても、他者が振り付けた作品を踊っているにしても、踊り手自身であることを改めて認識した次第です。

少々、残念だったのは、テーマや振付、音楽、衣装の選定にこの手があったのか、今という時代をこう切り取るのか、と瞠目することが少なかったことです。しばしば指摘されていることと思いつつ申し添えると、20世紀初頭に芽生えたモダンダンスが日本で独自の発展を遂げた結果、幾つかの舞台映える美技がいつしかコンクールの定番として定着し、それらを多用する作品が多勢を占めていたように感じました。

とはいえ、50人の決選出場者が一定水準以上の技術をすでに習得していたことは、成人の部ならではのことでしょう。今回のコンクールで同年代のダンサーの踊りを目の当たりにし、自分の踊り方、自分の表現を再確認し、成長の糧を得る機会になったことを願っています。



第1位 荒澤来瞳「悲しみの樹」

この度は第一位という身に余る賞をいただき、大変嬉しく光栄に思っております。

ご指導して下さいました先生はじめ、日々支えて下さった皆さまには心から感謝しております。

日頃より、伝えたい想いや情景を踊りで表現することの難しさに悩み模索しております。本作品が審査員の先生方や観て下さった人の心に届いていたら幸いです。

初心を忘れずこれからも精進して参ります。



第2位の1 藤本舞
「眩耀」



第2位の2 木原レン
「そして僕は一人になった」



第3位の1 岩永明希
「確かなものはこの夜の静けさ」



第3位の2 高桑奈津希
「暁に聴く」



第3位の3 金森みずほ
「灰の記憶」

以下上位入賞

朝日新聞社賞 近藤みどり「Last - 最後だとわかっていたなら -」／埼玉新聞社賞 高橋あかね「そして、陽の往く場所へ」／

テレビ埼玉賞 内海夏鈴「caprice」／東京新聞賞 大川采恵「MaBaTaKi - こぼれる記憶を刻む -」／毎日新聞社賞 矢島茜「2ペンスを鳩に」／読売新聞社賞

板橋玲奈「Blue Rose- 奇蹟の瞬間 -」／チャコット賞 横井伽歩「裸足のイヴ」／

埼玉県舞踊協会奨励賞 青山由依 嶋澤のどか 沖田麻桜 鎌田玲衣 清水心詠 川西凜空 原田紗也 成田美鈴 三田村依里香 グイド麻里絵

●ジュニア部

審査員講評 モダンダンス部門ジュニア部 呉宮百合香

決選に出場した132組を拝見して、中学1年生～高校3年生と年齢の幅があるにもかかわらず、総じて高い基礎力を持っていることに驚嘆した。一朝一夕には成し得ない地道な鍛錬を積み重ね、コンクールという特殊な環境下でも高い集中度で堂々たるパフォーマンスを披露して下さった出場者の皆様に、まずは心からの拍手を贈りたい。

一方で、正確な技術を見せることに力点を置くあまり、表現へ昇華できていない作品が多かったことは気に掛かった。特にジュニア部は、アクロバティックな技をたくさん盛り込んだ振付になりがちだが、技と技の間の繋ぎこそ、実は踊り手の個性の見せどころである。動きの質感やそこに至る動機を大切に、3分間をひとつの物語として紡いでほしい。

上位に入賞したのは、いずれも技術を超えて、観る者の心に大きく訴える瞬間があった作品であった。第一位の舟田桔平「夜想花」は、技術的にはまだ粗削りな部分もあるが、一貫したドラマに裏打ちされていることが魅力。特に中盤以降の音楽と一体となった踊りは、会場全体の空気を動かすほどの迫力があり、胸を打った。第2位の1の安藤希月「ウスベニノキミノウタ」は、春の空気を感じさせる作品。振付をしっかりと自分のものにした緩急豊かな踊りは、群を抜いた

第56回埼玉全国舞踊コンクール開催！

完成度で圧倒された。第2位の2の沖本真季「花 - 白のカーニバル」は、冒頭のバランスから引きつける。強靱なテクニックと繊細な表現が共存し、一つひとつの動きの輪郭も洗練されて美しい。

残念ながら入賞に至らなかった中にも、印象に残る作品は数多くあった。心身ともに伸び盛りの時期、ダンスに留まらず、興味赴くままに様々なことに目を向け、飛び込み、貪欲に吸収して行ってほしい。その過程で得られた経験や視点、価値観こそが、唯一無二のオリジナリティとなって、皆様の踊りに一層の深みと輝きを与えてくれるはずだ。



第1位 舟田桔平^{やそうばな}「夜想花」

この度は第一位という名誉ある賞を頂き大変光栄に思います。ご指導して下さる西村葵先生、幅田彩加先生はじめ先生方には感謝しております。この作品では特に繊細かつ男子ならではの力強い表現を意識しました。また先生と何度も音と動きについて確認し最後まで追求しました。本番では夜想花の世界観が表現できたと思います。

自分はとても恵まれた環境で練習をすることが出来ています。尊敬できる先輩方が身近にいて下さることがとても力になっていると思います。

今後も感謝を忘れず努力を重ねて参ります。

@松澤 綾子 / STAFF TES



第2位の1 安藤希月
「ウスベニノキノウタ」



第2位の2 沖本真季
「花 - 白のカーニバル」



第3位の1 小峰珀良^{しほら}
「時代の標」



第3位の2 小野紗奈^{しほな}
「終わりのないワルツ」



第3位の3 神尾海希
「蒼穹」

以下上位入賞

朝日新聞社賞 藤堂あさひ「別れるとき」/埼玉新聞社賞 土屋富美「いつも、、いつも君はとなりに」/テレビ埼玉賞 助川詩織「Unknown Way」/
東京新聞賞 青笹玲那「100万回生きた猫」/毎日新聞社賞 黒瀬陽奈子「Dear me」/読売新聞社賞 久保田葵音「光りの道」/チャコット賞 北原怜奈「月」/
/埼玉県舞踊協会奨励賞 藤堂ひかる 門脇璃子 中尾美柚 平野稟佳 土田葵咲 漆崎李歩 池内せり 高橋理子 倉光那奈 青山由奈

● 2部

審査員講評 モダンダンス部門2部(児童) 村山久美子

近年この部門の全体を通して感じることは、柔軟性が非常に高い、跳躍のバネがある、身体の軸がしっかりしている等の基礎力が高いということです。みなさんのような十代前半のうちに、このような基礎力を身体に叩き込むことは、その後、モダンダンスはもちろんのこと、どのようなジャンルのダンス、あるいはスポーツに取り組もうとも、大きな武器になります。

では、そのようなレベルの高さをふまえたうえで、上位入賞した方々と、残念ながら受賞しなかった方々にはどのような違いがあったか、いくつか理由をお話したいと思います。

その一つは、先生が生徒を本当に光らせる作品を与えていたかどうか、ということです。ほぼ全員が高い基礎力をもっていますから、決選に関しては、どの子も作品次第で上位に行ける可能性があるように思われました。その子供から自然に生まれる表現を引き出そうとした作品は、表現がうわべだけでなく、説得力のある踊りになって審査員の胸に響きました。作品を創る際に、生徒とよく語り合っ内面を把握することは、とても大切なことであると思われま

す。もう一つは、本当に“踊っている”かどうかということです。高々と脚を上げて長い間キープや、アクロバティックな逆立ち等々の技を並べるだけでは、ダンスにはならないと思います。音楽のリズム、質感、情感をもっと体からあふれさせてください。音楽の波にのったステップを踏んでいる子が少なかったのも気になりました。

そして最後に、いろいろな意味での踊りの美しさです。上位入賞のみなさんは、それぞれにそれぞれの美しさがありました。これは、バレエのような正確なフォームの美しさというよりも、内面から身体ににじみ出る美しさです。優しさ、愛する心を大切に、好奇心旺盛にたくさんの方々のことを経験し吸収して内面を磨くことが、人を感動させる美しいダンスを創り上げます(もちろん、上位入賞の方だけが内面の美しさをもっているわけではないと思いますが、それがダンスに反映されないのは、最初の理由の、内面を引き出せる作品かどうかという問題に帰ってきますね)。

来年もがんばってください！



第1位 高橋眞子「鳥、羽ばたく」

この度は、歴史あるコンクールで第1位という素晴らしい賞を受賞させていただき、とても嬉しく信じられない気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。今回このような賞をいただけたのは、いつも熱心に指導して下さった新美佳恵先生をはじめ、支えて下さった周りの方のお陰です。

私は、「鳥、羽ばたく」という作品を踊るため、鳥になれるように鳥を沢山観察しました。まだまだ課題はありますが、大好きな踊りをもっと深められるよう、沢山稽古していきたいと思っています。この度は、本当に有難うございました。



第 2 位の 1 島田歩衣香
「跡一廃虚に咲く一」



第 2 位の 2 徳地菜佳
「光の花」



第 3 位の 1 尾崎紗那
「光」



第 3 位の 2 久米美穂
「最後の灯火」



第 3 位の 3 板谷美咲
「かおのかたちのかおの駅」

以下上位入賞

朝日新聞社賞 渡邊紗優美「Crescent Moon ～願い～」 / 埼玉新聞社賞 猪股音々「涙星」 / テレビ埼玉賞 赤崎咲心「悲境...メデューサ」 / 東京新聞賞 原さくら「夜の木」 / 毎日新聞社賞 飯嶋心悠「きらめく命-うすばかげろう-」 / 読売新聞社賞 眞壁祐宇「Nuit-夜-」 / チャコット賞 久野友莉「いのち 神様からの贈り物」 / 埼玉県舞踊協会奨励賞 塚本このみ 青木瑠花 武田菜奈 岩瀬麻希 相澤杏樹 松本結愛 高橋莉凜 笠原茉央 高橋咲希 櫻井絢莉

おめでとう トピックス

其の 7

今回は、「第 57 回埼玉県文化団体連合会文化奨励賞」を受賞された 藤井香先生
にお話を伺いました。

藤井先生は、藤井 公先生、利子先生の元でダンスを始め、現在は主宰される彩
のくに創作舞踊団を中心に創作活動をされています。埼玉県舞踊協会においても
理事として、数々の新しい試みの公演やイベントを立ち上げ、形にされてきました。

今回の受賞について伺ったところ、「“これからも弛まず頑張れ！”という応援を頂いたような気がします。」と、とても
前向きな言葉をいただきました。

そして、一番印象に残っているイベントをお聞きすると、越谷の野外能楽堂で 10 年間に渡って
開催された「足袋 nce@能楽堂」とのこと。公演内容の企画と共に、地域の団体との
コラボレーションや伝統芸能の狂言との共演、観客と一緒に楽しめる「足袋 nce 体操」
の制作、SNS への配信 等々、「初めての試みだらけの企画で、本当にワクワクして
面白かった」と語っていただきました。

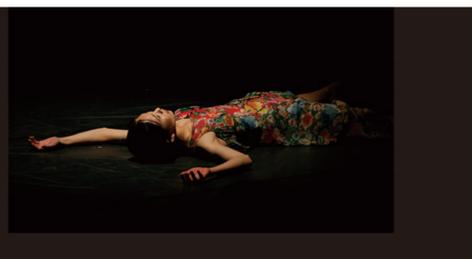
取り組まれてきた数々の心躍る体験は、藤井先生の創作への前向き
でひたむきな熱意で実現されてきたのだと感じました。

受賞おめでとうございます！

インタビュー 若野信子



BALLET & MODERN DANCE STAGE 1 埼玉県舞踊協会新進舞踊家育成企画



【第 48 回ステージワン】開催日時：2024 年 6 月 23 日（日）13 時及び 17 時開演 会場：彩の国埼玉芸術劇場小ホール 主催：（一社）埼玉県舞踊協会 後援：さいたま市、さいたま市教育委員会
埼玉県舞踊協会が主催する公演、「ステージ 1」が今年も盛大に行われました。若手を中心に作品披露の機会を提供しているこの公演は今年で 48 回目を迎えました。
2021 年の第 46 回から Hope 賞・Performance 賞を設け、受賞者には更なる創作のチャンスがあります。
他出演作品は協会Instagramのアカウント (@ sai.dance1967) でご紹介しています。



↑カーテンコールで前回受賞者ヘトロフィーを授与



Hope 賞 さくどう葵「シグナル-沈黙の浜辺-」

この度は、ステージ 1 hope 賞にご選考頂き、ありがとうございました。
作品を発表できる場としてステージ 1 を開催していただきました埼玉県舞踊
協会とご尽力頂きました先生方に心より感謝申し上げます。
今回の作品は世界で深刻な環境問題となっている海洋汚染に着目し、2050
年には廃棄物の量が海洋生物よりも多くなるというこの警告に心を動かされ
私なりに表現いたしました。

これからもこの受賞に恥じないよう舞踊と向き合い、ひとつひとつの作品
を大切に精進して参ります。



Performance 賞 松元日奈子「春の到来」

この度は performance 賞に選出して頂き有難うございました。この作品は、D・ホックニーが描いた、黄色のラップ水仙に惹かれて創作しました。コロナ禍の中に公開され、「春が来ることを忘れないで」という見出しが付いています。世界には戦禍や災害で大変な思いをしている人々がいます。幸いにも私は変わりなく自分の日常を過ごしていますが、ふと、そんな人々の事を思い考えます。いつ自分の身に起きても不思議ではないという恐怖と一緒に。いつか、その人達が大切な人と安心して幸せな時間を過ごせる事を願います。今回、出演してくれたダンサーは私の大切な人達です。本作は彼らに踊ってもらう事に意義があり、感謝しています。



Performance 賞 村松千花「善悪の彼岸」

このたびは第48回ステージワンにて performance 賞を頂き、誠に光栄に思います。言語化するのが難しい題材を踊りで表現するのは楽しくもあり、それ以上に悩む事も数多くありました。どう伝えどう見せるか、3人だからこそ出来る事とは。マヤ先生をはじめ、スタジオの仲間にアドバイスをもらい、共に踊った金森と矢島が、作品の意図を読み取って動きの選択をしたり展開を考察したりなど、たくさんの人たちからのサポートがあったおかげで形にする事ができました。とても感謝しています。今回受賞させて頂いた功績を自信に、今後も様々な作品を創作していきたいと思えます。選考にあたってくださった先生方、公演を運営してくださいました埼玉県舞踊協会の先生方、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

協会からのお知らせ

歴史ある、世界に羽ばたくコンクール
第57回埼玉全国舞踊コンクール2025
主催：(一社)埼玉県舞踊協会 協賛：埼玉県民芸術文化祭2025(申請予定)
会場：埼玉会館大ホール (JR浦和駅より徒歩5分)

伸びゆく埼玉の子どもたちによる
第57回バレエ・モダンダンスフェスティバル
2025年3月2日(日) 埼玉会館大ホール
舞踊協会会員の各研究所・教室の児童を中心とした合同発表会。他スタジオとの競演発表で、研究しあって向上を図ることを目的に実施しています。皆様のご来場をお待ちしております!

次回の第57回埼玉全国舞踊コンクール2025
◇日程
7/25(金) バレエシューズ部門
クラシックバレエ部門1部・創作舞踊部門 予選
7/26(土) クラシックバレエ部門ジュニア部 予選
7/27(日) クラシックバレエ部門2部 予選
7/28(月) クラシックバレエ部門2部 決選
7/29(火) クラシックバレエ部門ジュニア部 決選
7/30(水) クラシックバレエ部門1部・創作舞踊部門 決選
表彰式
8/3(日) モダンダンス部門1部・2部 予選
8/4(月) モダンダンス部門2部・ジュニア部 予選
8/5(火) モダンダンス部門ジュニア部 予選
8/6(水) モダンダンス部門2部 決選
8/7(木) モダンダンス部門ジュニア部 決選
8/8(金) トライ部門・モダンダンス部門1部 決選
表彰式
【前回より開設!】トライ部門
群舞は5名まで・ジャンル・年齢不問!
※日程は変更になる場合があります。
◇申込 2025年4月11日(金)12:00~20日(日)16:00
※定員になり次第締切
マイページより受付(協会HPをご覧ください)
ダンスを愛するみなさまを多様な部門でお迎えします!

協会員からのお知らせとご案内
○第35回マヤバレエスタジオ発表会
日時：2024年11月24日(日)15:00開場 15:30開演(入場無料)
会場：クレアこうのす大ホール(JR高崎線鴻巣駅よりバス)
連絡先：mybstudio.life@gmail.com またはホームページから要予約
○彩のくに創作舞踊団公演「平気に踊る vol.3」
日時：2024年12月21日(土)14:00開演/19:00開演
22日(日)14:00開演
会場：シアター・バビロンの流れのほとりにて(東京メトロ南北線王子神谷駅3番出口より徒歩15分)
チケット：全自由席(税込)3000円/U-20(20歳以下)2000円
連絡先：090-8016-6117(藤井)
○第78回川口文化祭モダン・バレエダンスコンサート
日時：2024年12月22日(日)15:00開演
会場：川口市南平文化会館
連絡先：048-255-6447(窪内)
○山崎麻矢モダンバレエスタジオ2025年発表会
日時：2025年4月20日(日)14:30開場 15:00開演
会場：川越市やまぶき会館
連絡先：090-9142-6567 メール：mayamb1993@gmail.com

一般社団法人 埼玉県舞踊協会
◇ホームページ
https://www.saitamaken-buyoukyokai.jp
◇Eメール saitama-dance@blue.ocn.ne.jp
○お知らせ
・次回第59号(2025年4月発行)の「協会員からのお知らせとご案内」への掲載は2025年5月~2025年10月のイベントが対象となります。申込締切は2月末日と致しますのでお早めに広報までお知らせください。
QRコード: ホームページ, Instagram (@SAI.DANCE1967)

編集後記
一般社団法人 埼玉県舞踊協会ニュース 第58号を発行いたします。今夏も酷暑の日々でしたが、ようやく秋の気配を感じる季節となりました。引き続き各事業とも滞りなく進められますよう、協会員をはじめ皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
広報部：山本教子 藤井香 弓削多淳子 矢島茜